

ここにひそかに再刊することを宣言する。適当に御覧下さい。適当に出すことになると思うので。

1/2 キッド 風巻 向井 鈴木 横枕組。予約1300円は高いので迷ったがために「宮古」で呑むのもいいと思て行く。(とこがこの日乙部の調子悪く一人で車で行ったため呑めなかった) 横枕氏は初めてで最初たまたまチャクチャやっていただけでいやな、たけと最後まで同じようにやり続ける一種痛快さがあった。1/3 浅草「ヒツチャー」(ルカ- ハウパーの魅力)「タイルの宝石」(1作目より落ちる)「デルタフォース」(脳天気なアメリカ万歳)見たが途中でうしろにいた男がぶつぶつと意味不明の不平不満を言い始め、急にたこら小たりしたらしいやだなと思いたがくも見続けていると2つ隣にきた酔っ払いが靴下を脱ぐやあたり強烈な臭いがたまたまよい文句男が「さ、を連呼し始めたが臭い男は知らんふり。残りの人たちがほろほろと席を立ちはじめそのたびに「お前かくさいからだ」と言う。とうとう僕もその場を離れられた。で、ひとひ話をもうひとつ。先日うさぎをひかかして来た。一瞬呆然と立ちつくすのみでした。1/21 祐天寺 河田白郎 映画と音の女の子コピーバンドは生急いで最悪だった。1/30、1/3 山谷 僕はもういっはいいない。しかし最近の正月はつまらない。バクセンとたかの子供の頃ほ面白かった。たまたま気がついたら、若金田一さんより死んだと思われ(というのはいわづら、でもウケないで) マタマタ(鬼)をもらったのはうれしいことだった。

1/4 京都の知らない女性から手紙くる。「1985」を読んでPEを送ってほしいというもの。「1986」のせいで今頃読んでいる人がいるようだ。PE特別号というので返事を書いたがこれならNo.21をつくらなくてもいいではないかという気にさせられて... 1/10 体調悪いのに大船に解体体士を見に行く。モノレール軌跡というスペースが良かったが最初外のホームで凍りのが寒くて気分悪く降り中に入ると暖房は全くないです耐えるのみ。内容はスライムあり、舞踏踏風ピエオあり、金属版(?)を燃やしたりのパフォーマンスとハウエティに富士、特に役者の一人のうますぎたセリフ動かしにおどろく。全体の話はおもしろい興味もなかった。あ、本場のヒルの演技(?)が一番よかったです。外での行為がVTRに内での劇と同時に進行に写される(格好は生演)

● 運のいい話。① うちにきたお年玉ハガキ13枚中、5等4等各1枚ずつあった。② 去年の景品つき暑中見舞ハガキも4通中1つあった。(最低賞)③ 福引の引当とつめていて最後の特別賞(ホー石)に自分の番号を引当てたこともある。④ 食の物屋に破したら店前の路上に止めておけ、とうけあうので、そーして気がついたらレッカー車に車輪の後半分が乗っていたというもコウナン話。(レッカー移動代は私わなくて済んだからね)⑤ 河田氏(彼の多文句に「お前二顔したお人」がある)の催し物の時、客も時間も足りずアンプを使わなかったで、レンタル料3万円のうちと私わりに戻したものは幸せだった。(3バンド? 出て、そのうち1つが、やたら機材を借りまくったおじいさんバンドだった。家の中には彼女の両親もいた)

● 「時の自動」ルパと高松がさえた。面白い人形とケチャに変えて中会話+美音楽+紙芝居+ピンズライドなど、まあまあ。
● 山谷夏后、冒頭で祭の女医がたひつに衣を掛ける行列に入ってきて重前に飛ぶ。いい話の登場と(谷本エカに)頭頂に花火の後の3-3の(彼のかわ)セリフがあった。「まていのが眠いの」より高踏的(?)でセリフがなせぬうける。ラストで天草四郎に扮した河田氏の遺児。コンナト。解解団の長剣、香科、大徳、山田、西村各々がたてしげのり出てきてとある。一時代前ね。
● 解体社 駅の外ホ-ムで芝居の開幕を待っている時、暗がりの中、ふいに別のホ-ムのベンチに役者達がひそかに座っているの気がつく。パン姿の男と軍服姿の男がひそかに私と目と鼻をたて、彼らが階段を降りてくると客をどうするかについて新たな劇、端に案内される。

る夢を見た(本人には、こないだコウイチロウたちと一緒に飲んだときあったんだけど、このことは話し忘れた)。そこでは、彼は新しい技を披露するんですね。どういふのかというと、歌をまるまる一曲、完璧に逆回転で歌うの。確か、クルト・ワイルか誰かのナンバーで試してくれて、僕は舌を巻いてしまいました。これはさすがに実現は難しいだろうな。いや、でも、鈴木くんならできるかも。

☆ここんこと、あまり本も読んでない。漫画では、買いそびれてた『電動バナナ倶楽部』(原律子)を買った!ゴウちゃんは原の『凹凸式神経衰弱』というおもちゃー想像してください。そのとおりのモノですーを買った。まだ2、3回しか遊んでいない。僕は、女流エッチ漫画家としては内田春菊とか桜沢エリカとか岡崎京子なんかよりは、原律子とか中田雅喜(『ももいろ日記』の単行本化が待たれる)とかのほうが、気取ってなくて好みます。関西風の味がする。

文字モノでは、『空間思考』(八束はじめ)、『科学的方法とは何か』(浅田彰・黒木寿ほか)、『オルガン』第1号(竹田青嗣・笠井潔・小阪修平編集)、『ミカドの肖像』(猪瀬直樹)、『思想の測量術』(榎並重行・三橋俊明、別冊宝島59)を全部/途中で読んでいます。中では、『思想の測量術』がとんでもぬえ本で、『オルガン』も『GS』も笑い飛ばされてしまいそうです。素材が近代日本の言説から取られているので多少とつきにくいけど、面白かったらありゃしなかった。『ミカドの肖像』も、待望の単行本化だったので、出てすぐ買ったんだけど、天皇制を巡るエポックメイキングなフィールド・ワークだ(しかし、中村雄二郎を「哲学者N」などと称して巻末の対談相手に選んでるあたりは、ちょっと胡散臭い)。

GESO君からの手紙と勝手に切り貼りしてしまった。今日会うためにしたPEをつくらうと急遽昨日書いたものです。今日5時と聞いけと逆回転で歌うというネタ鈴木君には昔「万国びっくり」(?)に出たことで、読書はマブマブ娯楽、俗俗の沼にはまり込んでいる。図書館にとうとう宇能鴻一郎モノが入る。この5国鬼六なども入るか?と、でもSMはあまり興味なし。人から10冊ほどSM雑誌送らされてお目もとかし食傷気味。中国読書記評任というものを中国でもこの所だ。しかし日本の学生は元限りませんわ。先日女の討論TVで見たけど女子大生が一番から「何」といふことかかった。

平穏な松の内ではあります。群馬の法師温泉はなかなかシブくて良かった。風呂に入る以外は別に何もせず、夜通しトランプしたのですが「はっきり言って私は弱い」。帰途、高崎の映画館で『紳士同盟』と『ボクの女に手を出すな』というミーハー向け2本立てを観た[気の毒なくらいガラガラの入り。都内ならもっと入っているんだろうな]。期待水準が低かったので、意外に楽しめた。前者は薬師丸が突然ツイストを踊るシーンが良かったけど、お話は原作に如かずでしょうね、やっぱり。KYON?のほうは原作未読「今後も読みそうもない」なれど、途中でネタが割れてしまってちょっと苦しい。両作品とも、アイドル映画とは思えぬ暗さ[後者はそれに加えて血腥さ]で、後味は良くない。KYON?の魅力のみが救いか。

☆科補氏が送ってくれた『アントニオ猪木 最後の真実』(坂坂 剛)を読む。僕は別にプロレス・ファンじゃないんだけど、『噂の真相』読んでりゃやっぱり例の猪木vsプロディの八百長問題には興味そそられるし、坂坂みたいに屈折したファン心理ってのも理解できる[気がする]のだった。八百長といえば、昔『週刊ポスト』がしつこくやってた相撲の八百長告発キャンペーンを思い出しますが、あれも笛吹けど踊らずで、尻すぼみになったんだよね、確か「長年培われた体質ってのはどこのギョーカイでもなかなか変わらないようだ」、プロレス業界も一般人の失笑を買いつつもこのままミエミエの八百長を続け、廃れていくのだろうか。

☆ほかに読んだのは『排除の現象学』(赤坂憲雄)。待望の書だったのだが、イマイチ不満。言葉を重ねれば重ねるほど凡庸な分析になり隔靴搔痒の感あり。取り上げて「事件」が、横浜の浮浪者襲撃とかイエスの方舟とか、いろんなかたちでとめどなく語られてきたものであるせいもあるが、筆者自身も書きながら苛立ったんじゃないかと推察する……。あと、またもや別冊宝島で『収容所社会ソ連に生きる』。これは腹を立てながら読んだ。ソ連の恐怖政治的な党至上の[明瞭な]支配体制と、西側諸国の管理のための管理にまで内面化を進めた脱中心的でソフトな[曖昧な]支配体制のどちらが怖いかは意見が分かれるところだろうが、支配の仕方として西側のほうがアタマいいとは言える。どっちもロクでもない社会に変わりないけど。さて、中国の学生反乱はどこまで盛り上がるか?

☆自作の詩で散逸したものと破棄したものを除いたもの全部を、こつこつフロア、ビーに入れ続けてたんだけど、ようやく全部終わった。70年から78年までの作で、120余編ありました(120余編しか残っていない、と言うべきか)。ワープロ詩集の形で出したいと思うのだけど、ページを数えると400枚ぐらいあって、200部印刷で試算しても25万円はかかりそうなもんだから、ちょっと躊躇してます。

◎25万というのは高いですね、でも読みたい、読みたいといふのは、ちよ図書館行って特製の山田風太郎(向原総図巻上)借り、こつこつ逸話みたいなのをじっくり読みたい。